

安全安心WG(第1～2回)の振り返りと今後の進め方

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会
第3回安全安心WG

2018年1月12日(金)9時～12時

安全安心WGの目的・全体像

大学の運動部活動における安全性の確保や学生アスリートを始めとした関係者が安心して活動できることを目指し、日本版NCAAがどのような支援を実施すべきかについて検討を進めることを目的とする。

本WGの目的

- 学生アスリート及び指導者を取り巻く安全安心の現状・課題について洗い出す
 - ✓ 学産官の各参加者が現状の学生アスリート及び指導者の安全安心に関する課題を理解し、対策に向けて前向きに討議する状態を目指す
- 課題を理解し対応すべき内容の優先付けを実施する
 - ✓ 課題を理解した上で、安全安心に関する対応策を打ち出し、クリティカルな課題から着手する優先度付けができる状態を目指す
- マネジメントWGに引き継いで議論すべきテーマをまとめる
 - ✓ 推進する上で障壁になり得る論点を抽出し、一部具体化に向けた進め方を討議している状態を目指す

本WGの全体像

第1回 WG

「学生アスリート等が安全・安心に活動できる環境を整えるために各主体が果たすべき役割」

第2回 WG

「予防をテーマとした、日本版NCAAにおける安全安心基準設定に関する基本方針」

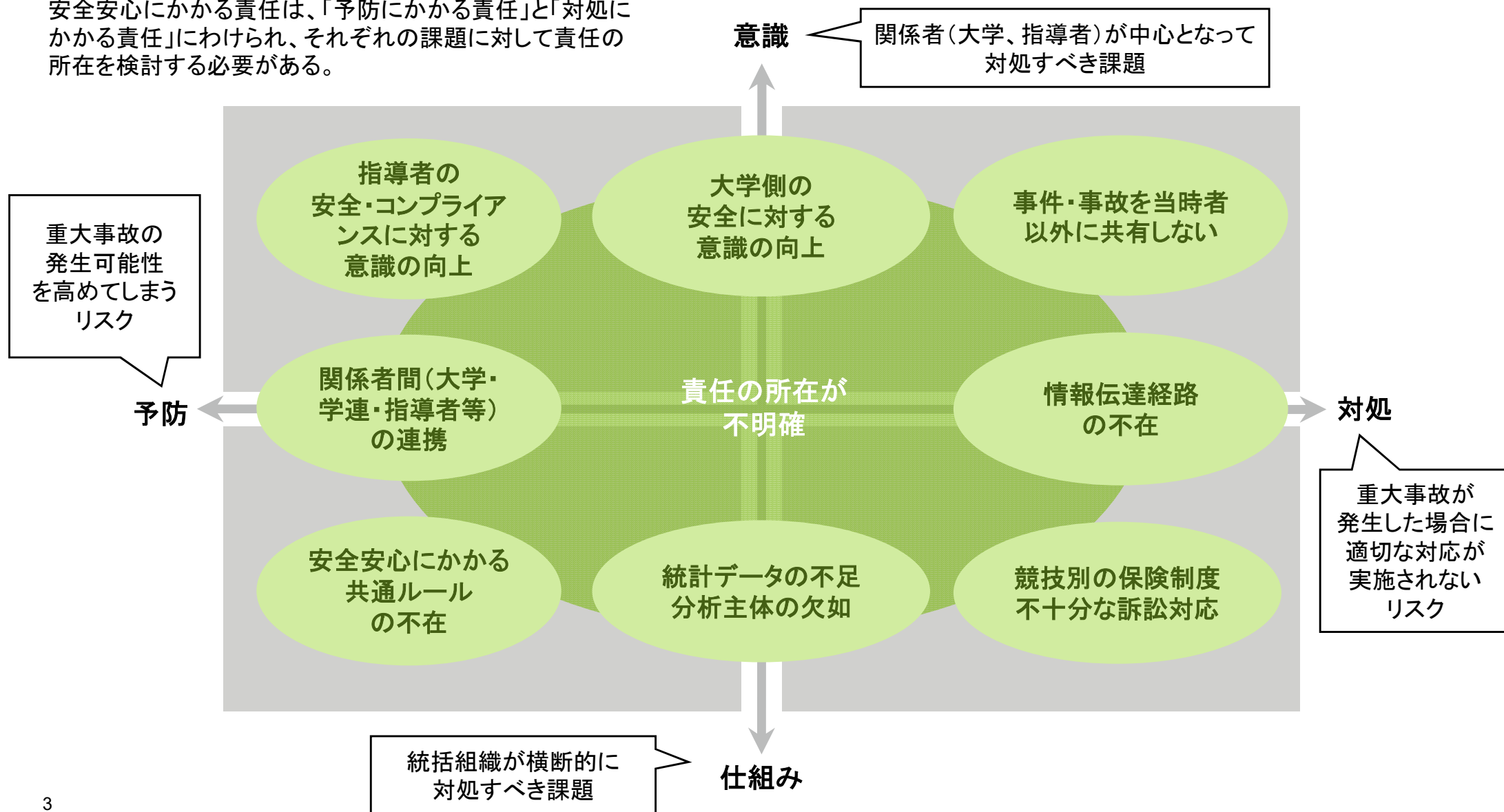
第3回 WG

「事後の対処をテーマとした、日本版NCAAにおける安全安心基準設定に関する基本方針」

第1回安全安心WGの議論の整理

「学生アスリート等が安全・安心に活動できる環境を整えるためになすべきこと」について議論されました。認識された課題は意識の問題から構造的な仕組みの問題に分けることができ、根本には責任の問題があります。

安全安心にかかる責任は、「予防にかかる責任」と「対処にかかる責任」にわけられ、それぞれの課題に対して責任の所在を検討する必要があります。



第2回安全安心WGの議論の整理

第2回WGでは、日本版NCAAが整備すべき安全安心に関する取り組みに関して、直ぐにでも整備をすすめるべき分野から、中長期的に整備をすすめるものまで、広く議論がおこなわれた。

短期

長期

情報の集約化

事故や事件(ヒヤリ・ハットを含む)の
情報収集体制の構築、関係者との共有

※競技団体の対策、医学会での取組、保険を通じた蓄積など大学関係に留まらない情報の収集共有と対策の充実を目指す

安全安心にかかる
共通ルールの設定

生死・重い後遺症を引き起こす重大事故を防ぐための
共通ガイドラインの徹底

- ・専門機関が提供している既存ガイドラインを利用
- ・種目に関わらず講じるべき対策として推進

<具体的取組>

- 「脳・頸椎」: 脳震盪を起こした時の対処と事後ルール
- 「心臓」: AEDの設置、AEDの使用法に関する研修や体験会の実施
- 「熱中症」: WBGT温度計の設置、WBGTを活用した熱中症対策

けが・病気の予防のため
の取組の拡充

- ・スポーツマウスガードの使用など「歯・口腔」を守る対策の普及
- ・競技ごとの安全対策ハンドブックの配布など対策の普及

- 最新の状況を踏まえたガイドライン等への更新
- 新たなルールの作成
- 関係機関との共同研究

現場の体制構築のため
の連携

大学・NF・学連・指導者等の優良取組事例の横展開

<具体的取組>

- ・チームドクター配置についての大学医学部との連携
- ・競技種目ごとの安全対策との連携

チームドクター・トレーナーの責任と権限の確立

大学教育における位置づけの確立

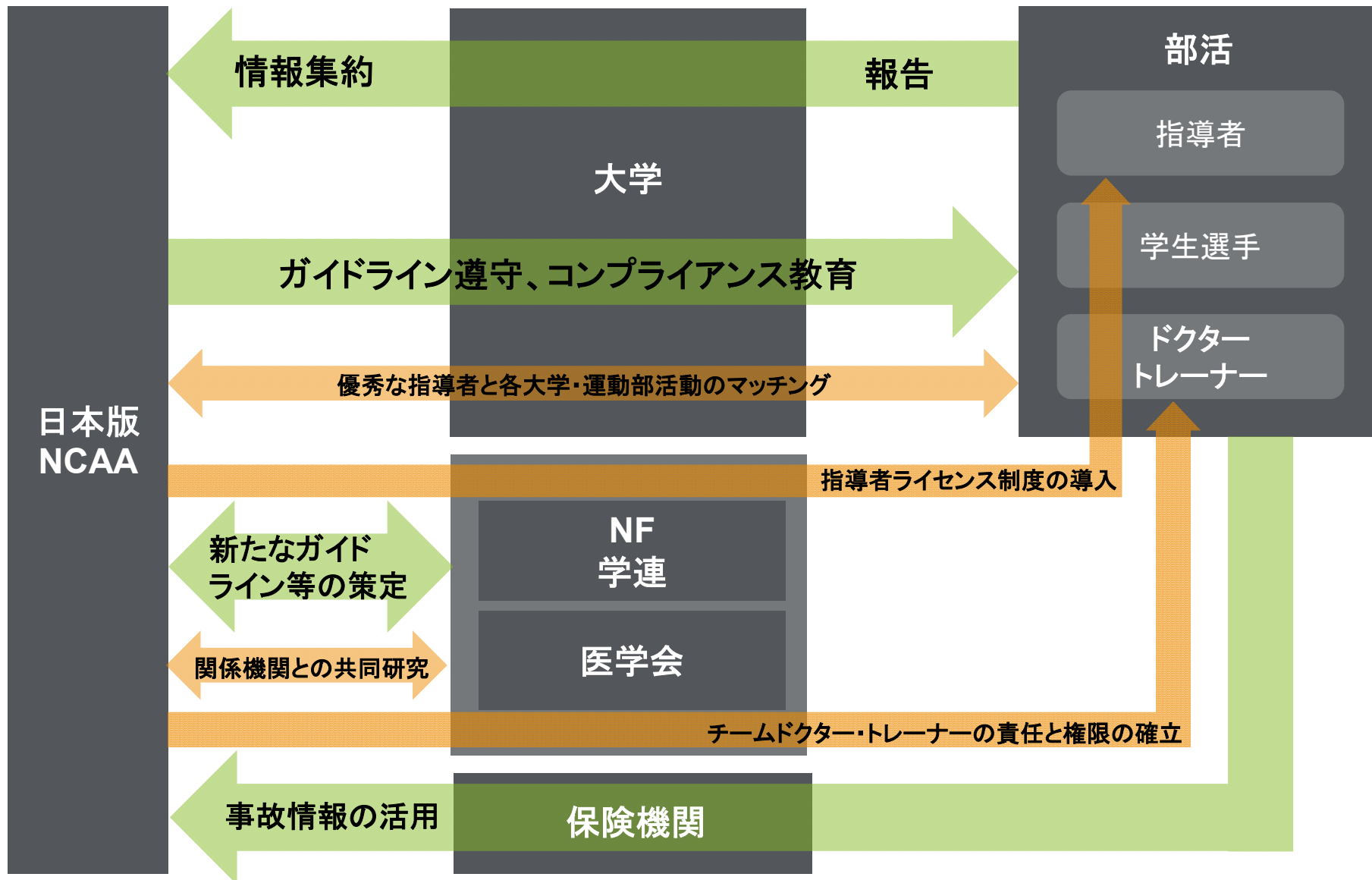
指導者の安全に対する
意識の向上

指導者ライセンス制度の導入
(既存の制度の活用を想定)

安全やコンプライアンス等に関する
指導者に対する研修・講習の実施

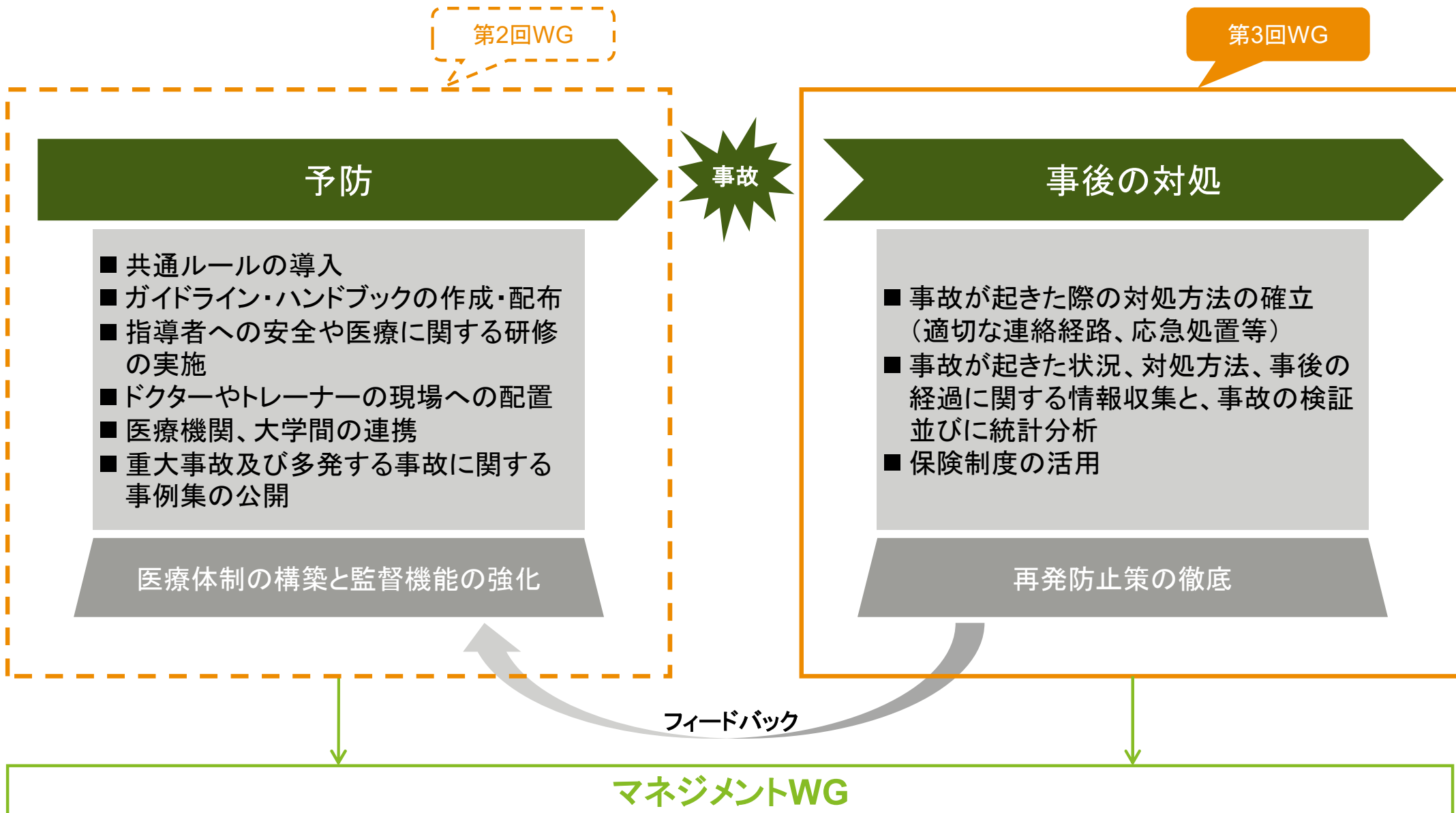
優秀な指導者と各大学・運動部活動のマッチング

第2回WGにおいて整備すべきとされた各種取り組みに関して、重要となるのは、日本版NCAAが中心となって情報を収集し、その情報を関係者の間で循環させることである。



第3回安全安心WGの議論の範囲

次回は、事後の対処として、事故が起きた場合の「適切な対処方法」、次の予防につなげるための「情報収集・分析・活用」及び事故が起きてしまった際の負担を最小限にするための「保険制度の活用」について、討議する予定です。



Appendix

第1回安全安心WG(2017/10/11開催)振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリート・指導者が安全・安心に活動できる環境を整えるためになすべきこと

■ 事故や怪我のデータの集計・分析

- ✓ 大学スポーツの事故・怪我に関する統計がないことが課題。スポーツ安全保険の大学生に関するデータでも、事故の発生原因(運動部活動中のものか、それ以外か)は不明
- ✓ 突然死などの重大事故のデータが重要であるが、頻度が低いため各大学が連携し集約することが必要

■ 責任の所在の明確化、事故や怪我の報告・共有の促進

- ✓ 課外活動であることに起因し、事故が起きたときの責任の所在が分からない
また、部活動側の責任問題となり試合に出場できなくなるような事態を恐れ、事故を隠そうとするインセンティブが働き、事故の情報が報告・共有されない
- ✓ 事故の情報を報告させるため、保険金がしっかり給付される点や大学側として訴訟対策となるといったメリットの検討が必要である
- ✓ 好事例と事故多発事例を出して、実態調査をした上で議論を進めていく必要がある
- ✓ トップアスリートを目指す部活動とそうでない部活動の区分けをした上での検討が必要である

■ 指導者

- ✓ 指導者の安全に対する意識が低いことが課題である

■ 日本版NCAAに期待される機能

- ✓ 日本版NCAAに期待されるのはドクターやトレーナーの配置に関する提言
- ✓ 熱中症や落雷などどんな競技でも起こりやすい問題への対処方法を纏めたハンドブック・ガイドラインを、日本版NCAAで作成し、配布することも有用

■ 保険

- ✓ アメフトは危険なスポーツであるため保険料が高いといった種目別に保険料が異なる状況が生じている。全競技一体的な保険とすることを旨とした検討が必要である

第1回安全安心WG(2017/10/11開催)振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリート・指導者が安全・安心に活動できる環境を整えるためになすべきこと

■ 日本版NCAAへの期待

- ✓ 日本では大学スポーツが課外活動であり、大学により管理・支援が難しいことが問題の根本。学生の安全は大学が管理することが本質であり、大学(学長等)が自分達の学生の命に責任を持つことがもっとも根本的かつ重要な要素。大学が一義的に責任を持ち、その集合体がNCAAという関係があるべき関係である
- ✓ 問題の根本への対処をしないまま個別の議論を進めてしまうと、部分最適になってしまう。トレーナーを雇用するのも、施設・設備を改善するのも大学側の負担増となり、大学側としてそれに見合うメリットを認識することは難しいのではないかと思われる
- ✓ 大学部活動を活性化させる上で、学生の安全確保のための取組を支援する組織として日本版NCAAを組成するので参加すべき、と呼びかければ、加盟による負担が大きくなければ、大学(学長等)の賛同は得られるのではないか。具体的な対策は大学ごとにできることが異なっても、対策の指針を提示することで学内の取組が良くなっていくことが期待できる
- ✓ ベンチマークとして米国の安全基準を当てはめた場合に、日本ではどれだけのスタッフが必要となり、どれだけのコストが掛かる、といった地に足のついた検討を、マネジメントWGと併行して実施していく必要がある

第2回安全安心WG(2017/11/6開催)振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 日本版NCAAにおける安全安心基準設定に関する基本方針

■ 直ぐにでも整備をすすめなければならない命にかかわる医療分野とその予防策について

医療分野	予防策
心臓	AEDの設置、AEDの使用方法に関する研修や体験会の実施
	WBGTを活用した熱中症対策
脳	事前のメディカルチェック(MRIや血液検査等)／健康診断の受診と結果の共有
	事故を起こさないようにするための、適切な指導方法に関する競技横断的な知識の普及・共有

なお、上記以外にも、永久障害となるもの(生活に影響を与えるような後遺症をもたらす大事故)としても頸椎損傷・背骨に関する予防策も検討すべき事項との意見があった。また、全般的な予防対策として「医療機関と大学との連携(スキーム作り)」という意見があった。

■ 中長期的に必要とされる予防策

- ✓ 指導者を指導する仕組みの構築(指導者のライセンスの検討も含む)
- ✓ 事故に関する統計データの整備、分析
- ✓ ガイドラインやハンドブック等を通じた共通のルール作り
- ✓ 競技横断的な防具の開発・普及
- ✓ 競技場、体育館等の施設の整備

■ 事後の対処(第三回に予定されているテーマ)に関連する意見

- ✓ 事故が起こった場合どのように対応するかについては、殆どの大学では部活の顧問に任せており、対応方法も明確にされていない場合が多いため、ガイドラインは作った方が良い。
- ✓ スポーツ安全保険や学生教育研究災害障害保険等の保険は強制的に入れる仕組みが必要である

第2回安全安心WG(2017/11/6開催)振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 日本版NCAAにおける安全安心基準設定に関する基本方針

■ 安全安心を確保する体制について

(日本版NCAAに期待する機能)

- ✓ 現場で安全のための合理的な判断ができるようにするための環境整備機能
- ✓ 指導者への助言機能、ドクターやトレーナーの配置に関する助言機能

(具体的な検討課題)

- ✓ 安全安心の取り組みを推進するためには、強制的にやらせないと動かない面がある。そのためにも、権利と責任の関係を整理する必要がある。
- ✓ 安心安全の取り組みに、任意団体であるサークル等を含めるかどうかを考える必要がある。
- ✓ 競技ごとに特性があるため、「競技横断的に必要となるもの(共通)」と「競技特有のもの(個別)」に区分して、安全安心の設計をする必要がある。
- ✓ 健康診断の結果の共有については、個人情報保護の観点から整理する必要がある。

■ 情報収集と知見の集約について

(日本版NCAAに期待する機能)

- ✓ 最先端事例や様々な事故データ等の情報収集機能
- ✓ ガイドラインやハンドブックへの編纂機能
- ✓ 指導者等が容易に閲覧できる場所を確保するといった情報提供機能

(具体的な検討課題)

- ✓ 死亡事故だけでなく、重篤な事例についても情報を収集する必要がある。
- ✓ 対策につなげる必要があるため、どういった時に、どういった場所・タイミングで発生しているのかの情報も必要である。
- ✓ 重大事故につながるヒヤリハットに関する情報も重要であるが、情報が乏しいことが課題となる。
- ✓ 様々な情報(例えば、災害給付情報)を1つに集約した高度な情報提供が予防につながる。
- ✓ 統計上の集計において、部活動と学生生活を切り離しにくい部分があり、いつが部活中の事故なのか、学生生活中の事故なのかの区分が難しい面があること